

1990年
4月
5月

これは今から25年前を記憶や資料をたよりにひも解いてみようとする企画です

外部コントローラの普及を

「練られたコースのために」、大阪 OLC 会長の楠見耕介さんが O-Japan90/5 月号に寄稿されたものを紹介します。

最近の大会は、地図についてはほぼ満足できるレベルに達していると言える。

地図と共に、オリエンテーリングを支える両輪のうち、もう一方の方はどうか。ジャーナルオブオリエンテーリングや第11回インカレ報告書でも指摘されているとおり、ルートチョイスやコントロールを「見つける」ことを重要視する傾向から逃れきっておらず、スピードと正確さをどう協調させていくかというオリエンテーリングの本質を捉えられていないコースプランニングが依然として多くの大会で見られる。クラス毎に定められているウィニングタイムに対し長すぎるコースが組まれるのが多いのも、このオリエンテーリングの本質であるスピードの維持という点が理解されていないことから生じていると思う。またコースプランニングのもう一つの原則である公平性の面でも配慮不足のコースプランが見られる。周囲に特徴物のない、うすミドリの中の点状特徴物にコントロールが置かれる場合や、同一コントロールを複数のコースで逆向き使うことで間接的な出入りが生じている場合などである。

このようなコースプランニングに関する問題解決として大阪 OLC が取ったのが表題のクラブ外からのコントローラの導入である。インカレなど一部の大会を除いてはコントローラの大会運営における位置づけが定まっていない現状では、内部からのコントローラでは前述のようなコースプランニング上の問題に対してチェックを行うことはなかなか困難である。また、競技地図のチェック、コントロール位置・パンチ台・フラッグの設置状況のチェックについても同様だが、内部のものより外部の方がなれあいによるチェックミスを防ぐという意味で望ましいのは当然である。

このような外部コントローラは大会の成功のためには欠いてはならないものであるにも関わらずこれまで普及してこなかったのは、やはり人選の問題大きいからであろう。コントローラには、ランナーとしての経験の上に大会運営全体を深く理解していることが必要である。それに加え運営者との連絡、様々なチェックを綿密に行うための労力を割けられることが重要である。しかし、何より大切なのはコントローラとしても経験である。外部コントローラの制度が普及するにつれて、ふさわしい人材も多数現れてくると考えられる。

関西における高校 OL 界の現状と今後の展望

関西高連 OS 会会長に4月に就任予定の土屋俊平さんから O-Japan に寄稿があったものである。

関西における高校 OL 界の歴史は古く、そして初期から現在にいたるまで OS は特に学生 OL 界で活躍してきた。だが現状は決して明るいものではない。学校数、人口ともに減少傾向が続いており、そのあおりで関西高連の活動も停滞せざるを得なくなってきた。この背景には全国共通の問題である「高校生であるゆえの制約の多さ」のほかに、関西の問題としての「近郊テラインでの大会の少なさ」（高校生が気楽に参加できる大会が少ない）が上げられる。さらには OS が主に学連・学生クラブの中心として活動するために、高校生を支援する体制が整っていないのが問題の一つであった。とはいえ高校生を取り巻く環境の悪さを認識し、改善しようとする動きはあったが個別的で、統一的・継続的なものではなかった。

東西対抗が廃止され、インターハイが開催されたのを境に関西からの参加者がいなくなり、同時に関西高校 OL 界の弱体化が深刻化を危惧した大学生から高校生をインターハイに参加させようという動きがあった。インターハイ参加が高校生の意識改革につながるという発想である。茨木高校のみであるが、10名を超えるエントリーがあり、今後のインターハイ参加の端緒となるのではと期待される。そして恒常的な高校生支援体制としての OS 会が4月に発足する予定である。しかし、このメンバーは関西学連・各大学において活動しているので、どこまで実質的な活動ができるか定かではない。従って、むしろ関西における高校生支援のキーステーションとして学生・社会人の目を高校生に向けさせるという役割をはたして行くことになろう。

時の話題

4月1日 大阪で花と緑の博覧会が鶴見緑地で開催される。

4月1日三井銀行と太陽神戸銀行が合併太陽神戸三井銀行が誕生

5月3日池波正太郎（小説家）死去

5月21日藤山寛美（喜劇役者）死去